

日本学術会議

東北地区会議ニュース

No. 34

1 ごあいさつ

東北地区会議第24期運営協議会代表幹事 日本学術会議第三部会員

国立大学法人東北大学 大学院医工学研究科長・教授

厨川 常元

いつも日本学術会議東北地区会議の活動に御尽力賜り、厚く御礼申し上げます。東北地区会議では、国民の科学に対する理解の増進を図る事を目的に、毎年度東北の各県で趣向を凝らしながら公開学術講演会を開催しております。今年度は、福島県立医科大学の全面的な協力を頂戴しながら、昨年9月15日にコラッセふくしま(福島県福島市)で、「超高齢社会における看取りを考える」をテーマに開催いたしました。

よく日本は世界一の高齢社会であるといわれています。一体何が世界一なのでしょう？「高齢社会」を示す数値として「高齢化率」があります。高齢化率とは、そのエリアに住む全人口のうち、65才以上の人口が占める割合のことで、世界保健機関（WHO）では次の3段階に分けているとのこと。すなわち65歳以上の人口が7%を超える場合を“高齢化社会”、65歳以上の人口が14%を超える場合を“高齢社会”、65歳以上の人口が21%を超える場合を“超高齢社会”と定義しています。では日本は何%なのでしょう？総務省の発表によると、2019年は28.4%であり、過去最高値となったそうです。このような状況の中、今後ますます高齢化が進行することが容易に予想され、高齢者の貧困や経済格差、1人暮らしの高齢者の貧困等、社会問題がクローズアップされてきております。一方で、認知症、老老介護、健康寿命、看取り等の問題も山積みです。今回の公開学術講演会では、これらの問題の中でも特に、望ましい看取りのあり方にフォーカスし、在宅緩和ケアに携わっている現場の医師、患者さんに精神的なケアを行っている臨床宗教師、並びにケアマネージャの方々に、現状と問題点についてお話をいただきました。また工学的な立場からは、サイバーヘルスマonitoringの現状に関しての講演もいただきました。医学的な観点と精神的な観点からの共同作業が重要で、社会全体でケアしていくことが重要であることを改めて認識させられました。130名を超える一般市民の皆様にお集まりいただきましたこと、主催者として改めて御礼申し上げます。

最後になりましたが、今後の東北地区におきます日本学術会議の事業に対しまして、ご意見・ご提案がございましたら、是非とも東北地区会議運営協議会委員の先生方あるいは東北地区会議事務局(東北大学研究推進課)までお申し出下さい。皆様方のご協力を心よりお願い申し上げます。

2 令和元年度事業報告

- 1) 科学者との懇談会「(女性)若手研究者の研究支援について」および公開学術講演会「超高齢社会における看取りを考える」の開催(令和元年9月15日)
- 2) 東北地区会議運営協議会の開催(令和2年2月19日)
- 3) 東北地区会議ニュース(No.34)の発行(令和2年3月)

3 科学者との懇談会および公開学術講演会開催報告

令和元年9月15日(日)にコラッセふくしま(福島県福島市)において、科学者との懇談会および公開学術講演会が開催されました。

11時30分より小会議室で開催された科学者との懇談会では「(女性)若手研究者の研究支援について」をテーマとし、福島県立医科大学において活躍する若手研究者と日本学術会議会員・連携会員とで懇談を行いました。現場からの率直な意見を基に、今後取り組んでいくべき課題等について、有意義な意見交換が行われました。

午後からは、多目的ホールで「超高齢社会における看取りを考える」をテーマとし、公開学術講演会が開催されました。東北地区会議会員であり福島県立医科大学理事・副学長、医学部の安村教授の司会のもと、日本学術会議副会長であり国立研究開発法人科学技術振興機構副理事の渡辺美代子副会長及び日本学術会議東北地区会議代表幹事であり東北大学大学院医工学研究科の厨川常元研究科長の開会挨拶を皮切りに、ふくしま在宅緩和ケアクリニック院長であり特定非営利活動法人福島県緩和ケア支援ネットワーク理事長の鈴木雅夫理事長が「地域における看取りの実際」をテーマに、北海道東北臨床宗教師会事務局長であり日本臨床宗教師会認定臨床宗教師の高橋悦堂氏が「看取りにおける臨床宗教師の役割を考える」をテーマに、暮らしの保健室・ケアカフェアンダンチの玉井照枝氏が「医療系・社会福祉系からの看取りへのアプローチ、そして今…」をテーマに、東北大学 総長特別補佐(社会連携担当)でありサイバーサイエンスセンター教授の吉澤誠教授が「サイバーヘルスマonitoring～映像からの生体情報抽出と看取りへの応用」をテーマに、それぞれ講演を行いました。

講演終了後は質疑応答の時間が設けられ、講演会に参加された多くの参加者と共に超高齢社会における看取りにおける今後の課題等について意見交換を行い、理解を深める有意義な機会となりました。

日 時

科学者との懇談会：令和元年9月15日（日）11：30～13：00

公開学術講演会：令和元年9月15日（日）13：30～16：45

場 所

コラッセふくしま（福島県福島市三河南町1番20号）

テーマ

科学者との懇談会：（女性）若手研究者の研究支援について

公開学術講演会：超高齢社会における看取りを考える

講演会次第

13：00 開場

13：30 開会挨拶

日本学術会議副会長挨拶

渡辺 美代子（日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）

日本学術会議東北地区会議代表幹事挨拶

厨川 常元（東北地区会議代表幹事、東北大学大学院医工学研究科研究科長）

13：40 講演

①「地域における看取りの実際」

鈴木 雅夫（ふくしま在宅緩和ケアクリニック 院長、NPO 法人福島県緩和ケア支援ネットワーク理事長）

②「看取りにおける臨床宗教師の役割を考える」

高橋 悦堂（北海道東北臨床宗教師会事務局長、日本臨床宗教師会認定臨床宗教師）

③「医療系・社会福祉系からの看取りへのアプローチ、そして今…」

玉井 照枝（暮らしの保健室・ケアカフェ アンダンチ）

④「サイバーヘルスマonitoring～映像からの生体情報抽出と看取りへの応用～」

吉澤 誠（東北大学 総長特別補佐（社会連携担当）、サイバーサイエンスセンター教授）

16：10 質疑応答

16：40 閉会挨拶

竹之下 誠一（福島県立医科大学理事長兼学長）

司会進行：安村 誠司（東北地区会議会員、福島県立医科大学理事・副学長、医学部教授）

参加者

約130名

「科学者との懇談会(福島県立医科大学若手研究者との懇談)」に参加して

公立大学法人福島県立医科大学 基礎病理学講座 助教

東 淳 子

今回の懇談会は男女共同参画の視点を含めて若手研究者と意見交換する趣旨ということもあり、出席した若手研究者のほとんどが、福島県立医科大学で診療業務にあたりながら医学研究に携わる女性医師でした。懇談会の中では医師としての勤務と研究、そして家庭を両立させる上での、現在の診療体制の問題点などが意見としてあがりました。医師の過重労働や出産育児を契機とした女性医師の離退職はすでに世間にもよく知られた課題ですが、その状況でさらに研究活動を上乘せしようとした時に、個人の努力や研究に対する熱意だけでは限界があることは想像に難くないと思います。自分の経歴を振り返ると、周囲の理解や配慮に助けられたことが多々あり、今度は自分が支援し理解ある環境づくりに貢献しようとして努めているところです。

医師不足の解消への取り組みの一環として、女性医師の離職・退職率を下げるために診療業務と家庭の両立を支援しようという努力は始まっていますが、女性医師だけでなく男性医師も含めて、勤務・研究・家庭の三者両立を支援するには、個々の医療機関や診療現場の努力だけに任せるだけでなく、社会全体の枠組みや制度の改善が望まれています。今回の懇談会で様々な研究分野の方々にこうした医学研究の現場の若手の声を聞いていただけたのは、非常によい機会だったと考えています。

実は私自身は出産を契機に臨床医をやめ、子供二人の育児をしながらフルタイムで研究者として働いています。懇談会を終えて感じたことですが、懇談会中は医師として勤務することを前提として研究活動を如何に両立させるかということに焦点を絞った意見が交わされた一方で、臨床医をやめて研究を職業にするという選択については触れられることがありませんでした。一つには現在の研究者という職業の不安定さを反映している点もあるかと思いました。また現在の医学部教育では臨床医の育成が第一の目的とされており、一旦医学部に入学したら国家試験、初期臨床研修、専修医へというように進路設計が一本道で示され、医学部を出たら医者をするしかないという固定概念にとらわれている側面もあるのかもしれない。確かに日本の医師不足は切実な社会問題ではありますが、医学部で習得した知識を活用し、研究者になることを含めて、臨床医以外の分野で活躍するという多様な選択肢もあっていいのではないかと個人的に感じた次第です。



科学者との懇談会の様子

公開学術講演会開催報告「超高齢社会における看取りを考える」

日本学術会議東北地区会議 第二部 会員
福島県立医科大学 理事兼副学長、医学部教授
安村 誠 司

日本学術会議東北地区会議の主催、福島県立医科大学、特定非営利活動法人福島県緩和ケア支援ネットワークの共催で、2019年9月15日にコラッセふくしまで「超高齢社会における看取りを考える」を開催しました。

渡辺美代子氏（日本学術会議 副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構 副理事）、厨川常元氏（日本学術会議東北地区会議 代表幹事、東北大学大学院医工学研究科長・教授）から開会挨拶がありました。



渡辺美代子副会長挨拶

「老老介護」がむしろ特別でなくなった日本の高齢化はさらに進行することが予想されており、看取りのあり方は国民全体の課題と言える中で、本企画は、超高齢社会となった日本における望ましい看取りのあり方を、多面的に議論することを目的としました。また、日本学術会議として今後この問題にどのように取り組んでいくかを、参加者とともに考えたいというのが趣旨でした。



公開学術講演会の様子

そのような点から、演者には、鈴木雅夫氏（ふくしま在宅緩和ケアクリニック 院長、特定非営利活動法人福島県緩和ケア支援ネットワーク 理事長）には、「地域における看取りの実際」を、高橋悦堂氏（北海道東北臨床宗教師会 事務局長、日本臨床宗教師会認定 臨床宗教師）には、「看取りにおける臨床宗教師の役割を考える」を、玉井照枝氏（暮らしの保健室・ケアカフェ アンダンチ）には、「医療系・社会福祉系からの看取りへのアプローチ、そして今...」を、吉澤誠氏（東北大学 総長特別補佐（社会連携担当）、サイバーサイエンスセンター 教授）には、「サイバーヘルスマonitoring ～映像からの生体情報抽出と看取りへの応用～」をお話頂きました。

司会者は私、安村誠司が担当し、質疑応答を実施しました。講演会に参加された多くの参加者とともに、超高齢社会における看取りのあり方について意見交換を行い、理解を深める有意義な機会となりました。また、参加者のアンケート集計結果からは、非常に高い評価を頂きました。

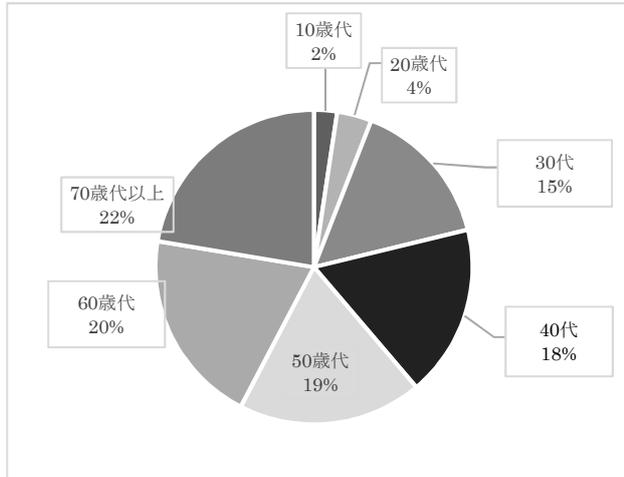
最後には、福島県立医科大学の竹之下誠一理事長兼学長から「大学としても、引き続き地域の皆様のニーズに対応できるようより良い医療の提供と地域づくりに、日本学術会議東北地区会議と共に貢献していきたい。」旨の閉会挨拶があり、講演会は趣旨に沿った有意義な会となり、終了となりました。



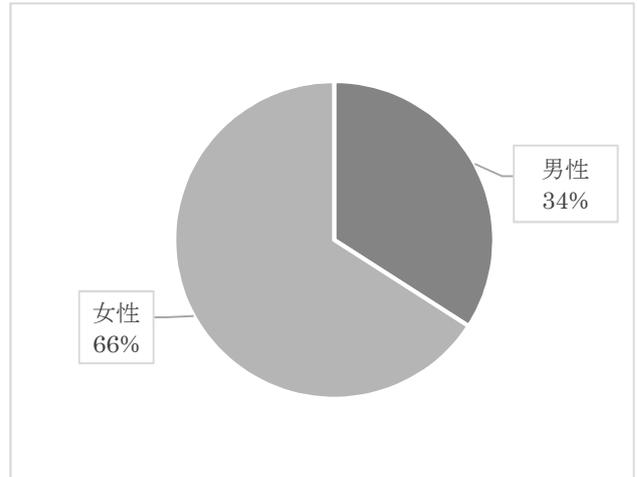
質疑応答の様子

アンケート結果

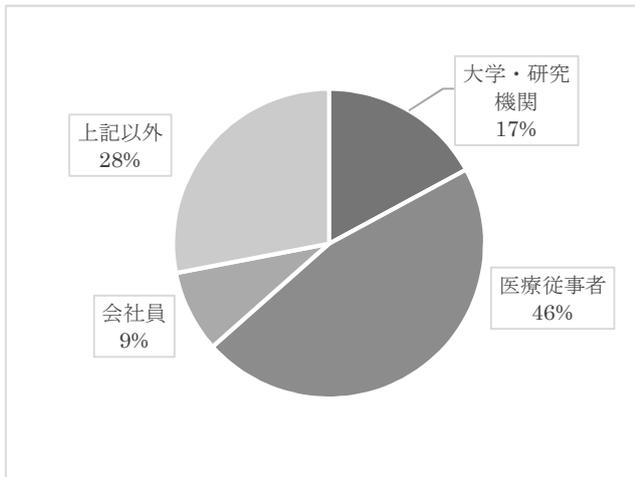
1. 年齢について、お答えください。



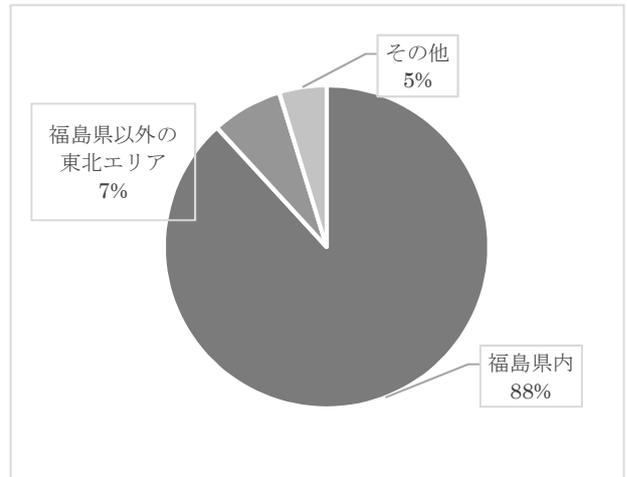
2. 性別について、お答えください。



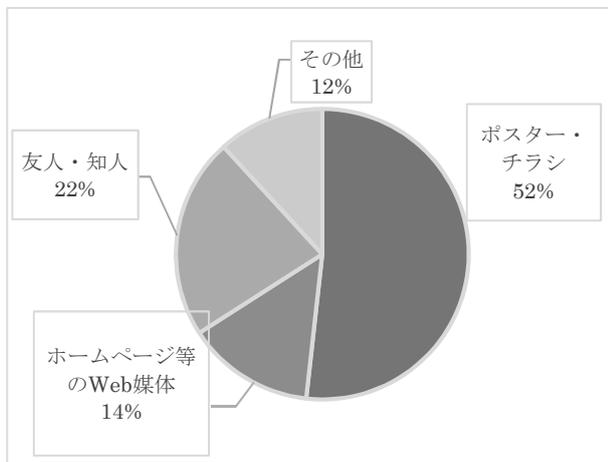
3. 御職業について、差し支えない範囲でお答えください。



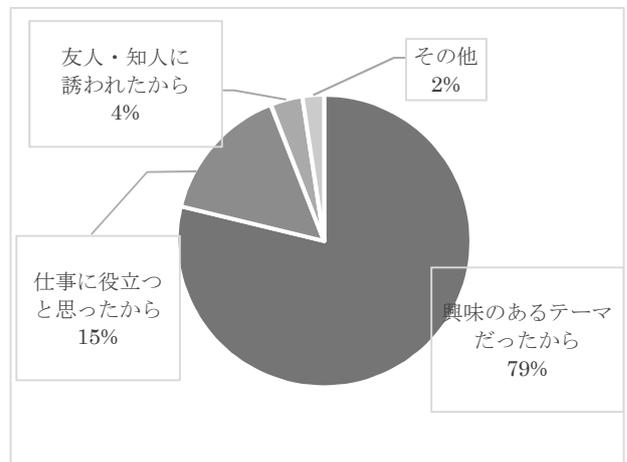
4. お住まいについて、お答えください。



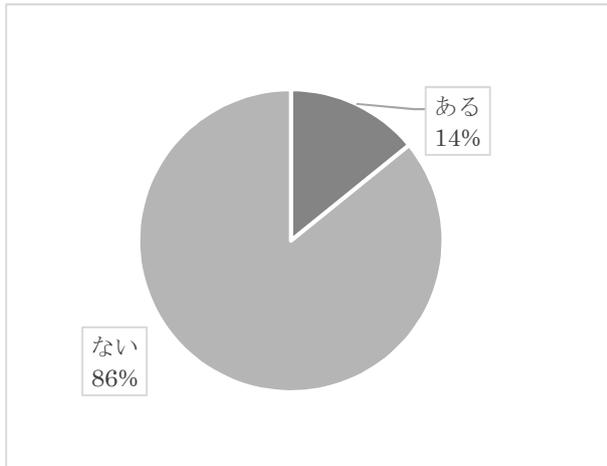
5. この講演会について、どのような方法で知りましたか。



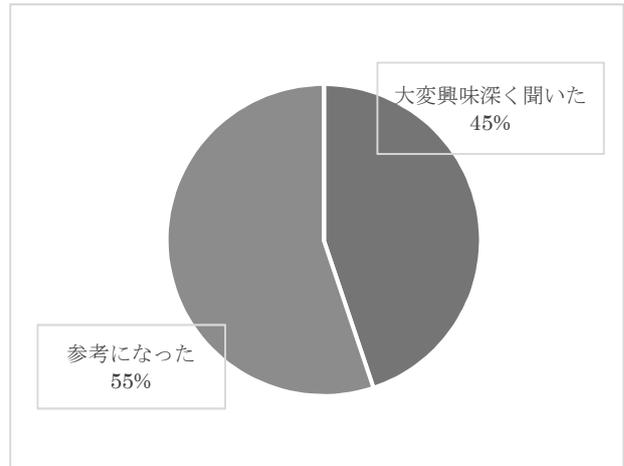
6. この講演会について、どのような動機で参加されましたか。



7. 今までに日本学術会議主催学術講演会に参加されたことがありますか。



8. この講演会について、どのように思いましたか。



【講演会の意見・感想等（抜粋）】

- ・多彩な分野からの話で面白かった。宗教と再先端医工学という一見相反する分野も詰まる所、人の幸せ、安らぎ、穏やかな人生に寄与したいという根っこは近いと感じた。
- ・「看取り」という1つのテーマの中で様々な視点からのアプローチがあり面白いと思いました。特に臨床宗教師という職について初めて知り興味を持ちました。長い人生を生きてきた高齢者の看取りという事を考えるとあつたばかりの専門家たちがケアに徹するよりも家族や友人など深い関わりのあつた人こそ最期を共にすべきだと考えていました。しかし、自分の内面、本質を完全に理解してくれる人がいるのかというはある意味疑問でやはり誰によるものでも看取られる人間が幸せを感じられるケアであればその人の人生は充実すると思います。自分が今死から遠い存在だと思われる年齢だからこそ感じられること、働化方を大事にしながら知識を深め医療に貢献していきたいです。
- ・意義深いテーマで大変参考になりました。
- ・いろんな角度で在宅支援を聞くことができて良かった。
- ・実母の老々介護をしている身として、臨床宗教師の高橋さんの話を聞きたくて来た。話を聞いて少し答えが出てきた気がします。
- ・在宅医療ではとても丁寧にケアをしているので、全国的に国民の意識が高まればいいと思います。
- ・私の住んでいる地域は、2025年を迎える前にすでに超高齢化となっており、多死社会をむかえています。看取りを考える上で、がん患者以外にもどのようなサポートが求められるのか考えさせられました。
- ・現場に在職していた時に関わっていたことで、とても興味深く聞かせていただきました。
- ・医療従事者でないので、このような形で知識を開いてくださるのがありがたいです。
- ・各先生方の熱意が伝わった。
- ・地域における看取りについて、もっと広く知られる事、その上で一人一人が地域での看取りを安心して選べる事が大切だと思った
- ・看取りについての理解が深まりました。
- ・臨床宗教師の活動は話で聞いたことがあつたが、実際の活動と話を聞くことができ、大変よかったです。
- ・生きる事の意味を吟味しつつ、現実の中でいかに自分の思考と行動を規制するかという事が大切だと思った。
- ・地域における看取りのために、16kmの往診範囲を取り除いてほしい。
- ・医療へのIoT活用の進歩が目覚ましいことを感じました。
- ・今回の講演は、具体的な事例の紹介も多く大変参考になりました。

4 地区会議構成員（会員・連携会員）名簿

令和元年12月現在
五十音順、敬称略

氏名	所属	分野	氏名	所属	分野
第一部会員			犬竹 正明	東北大学	総合工学・物理学
行場 次朗	尚絅学院大学	心理学・教育学	岩渕 明	岩手大学	機械工学
佐藤 嘉倫	東北大学	社会学	大越 和加	東北大学	食料科学・農学
高倉 浩樹	東北大学	地域研究	大隅 典子	東北大学	基礎医学・基礎生物学
糠塚 康江	東北大学	法学	大谷 栄治	東北大学	地球惑星科学
水野 紀子	東北大学	法学	大堀 淳	東北大学	情報学
第二部会員			小笠原 康悦	東北大学	歯学・基礎医学
秋葉 澄伯	弘前大学	健康・生活科学 環境学	岡田 益男	東北大学	材料工学
経塚 淳子	東北大学	農学・基礎生物学	奥部 真樹	東北大学	化学
杉本 亜砂子	東北大学	基礎生物学	海妻 径子	岩手大学	社会学・史学
高井 伸二	北里大学	食料科学・農学	風間 基樹	東北大学	土木工学・建築学
南條 正巳	東北大学	農学・環境学	加藤 千尋	弘前大学	農学
村川 康子	宮城県立がんセンター	臨床医学	嘉山 孝正	山形大学	臨床医学
安村 誠司	福島県立医科大学	健康・生活科学・臨床医学	河合 宗司	東北大学	総合工学・機械工学
第三部会員			河合 佳子	東北医科薬科大学	基礎医学・基礎生物学
阿尻 雅文	東北大学	化学・環境学	河田 雅圭	東北大学	統合生物学
大野 英男	東北大学	総合工学・電気電子工学	河野 銀子	山形大学	心理学・教育学・社会学
厨川 常元	東北大学	機械工学	菊地 芳朗	福島大学	史学
小谷 元子	東北大学	数理学	北川 尚美	東北大学	化学・総合工学
田村 裕和	東北大学	物理学	木村 敏明	東北大学	哲学・地域研究
連携会員			木村 直子	山形大学	食料科学
赤池 孝章	東北大学	基礎医学	久保田 功	山形大学	臨床医学
安達 毅	秋田大学	総合工学	栗原 和枝	東北大学	化学
安達 文幸	東北大学	電気電子工学	小島 妙子	弁護士	社会学・法学
阿部 恒之	東北大学	心理学・教育学	小林 隆	東北大学	言語・文学
五十嵐 和彦	東北大学	基礎医学・基礎生物学	小林 広明	東北大学	情報学
石井 直人	東北大学	基礎医学・臨床医学	小森 大輔	東北大学	環境学・土木工学・建築学
石川 拓司	東北大学	機械工学・総合工学	小山 良太	福島大学	地域研究・農学
伊藤 貞嘉	東北大学	臨床医学	紺野 慎一	福島県立医科大学	臨床医学
乾 健太郎	東北大学	情報学	西條 芳文	東北大学	基礎医学

氏名	所属	分野	氏名	所属	分野
才田 いづみ	東北多文化アカデミー	言語・文学	西 弘嗣	東北大学	地球惑星科学
佐々木 啓一	東北大学	歯学	野家 啓一	東北大学	哲学
佐々木 公明	尚綱学院学院大学	経済学・環境学	芳賀 満	東北大学	史学・哲学
佐藤 弘夫	東北大学	哲学・史学	橋本 優子	福島県立医科大学	基礎医学・臨床医学
佐藤 れえ子	岩手大学	食料科学・臨床医学	長谷河 亜希子	弘前大学	法学
澤井 高志	東北大学	基礎医学・情報学	花輪 公雄	東北大学	地球惑星科学
下野 裕之	岩手大学	農学	原 純輔	東北大学	社会学
生源寺 眞一	福島大学	農学	平野 愛弓	東北大学	総合工学
庄子 哲雄	東北大学	機械工学・材料工学	平本 厚	東北大学	経済学
菅山 真次	東北学院	経済学	福村 裕史	仙台高等専門学校	化学
住井 英二郎	東北大学	情報学	古原 忠	東北大学	材料工学
関口 仁子	東北大学	物理学	増田 聡	東北大学	地域研究・土木工学・建築学
曾我 亨	弘前大学	地域研究	圓山 重直	八戸工業高等専門学校	機械工学・総合工学
高田 昌樹	東北大学	総合工学・化学	宮岡 礼子	東北大学	数理科学
高梨 弘毅	東北大学	材料工学・総合工学	武藤 由子	岩手大学	農学
田中 真美	東北大学	機械工学	村田 勝敬	秋田大学	健康・生活科学
千葉 柁司	東北大学	物理学	持田 灯	東北大学	土木工学・建築学
寺崎 哲也	東北大学	薬学	本橋 ほづみ	東北大学	基礎生物学・基礎医学
寺田 眞浩	東北大学	化学・薬学	柳原 敏昭	東北大学	史学
寺田 幸弘	秋田大学	臨床医学	山下 俊一	福島県立医科大学・量子科学技術 研究開発機構高度波ばく医療セン ター・長崎大学	臨床医学
照井 伸彦	東北大学	経営学・経済学	山下 正廣	東北大学	化学
天童 睦子	宮城学院女子大学	心理学・教育学・社会学	山下 まり	東北大学	食料科学・農学
徳山 英利	東北大学	化学・薬学	山田 章吾	東北大学	臨床医学
中沢 正隆	東北大学	電気電子工学・総合工学	山本 雅之	東北大学	基礎医学
永次 史	東北大学	薬学・化学	湯村 和子	東北医科薬科大学	臨床医学
永富 良一	東北大学	健康・生活科学・基礎医学	吉沢 豊予子	東北大学	健康・生活科学
中山 啓子	東北大学	基礎医学・基礎生物学	吉野 博	東北大学・秋田県立大 学・前橋工科大学	土木工学・建築学・健康・生活科学
新家 光雄	東北大学	材料工学	吉原 正彦	青森中央学院大学	経営学

以上 112 名